

長房小だより 12月

No.828

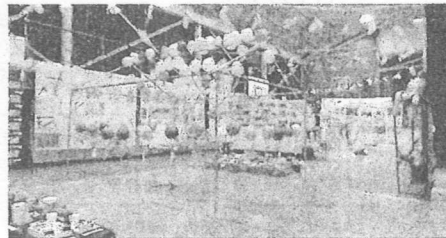
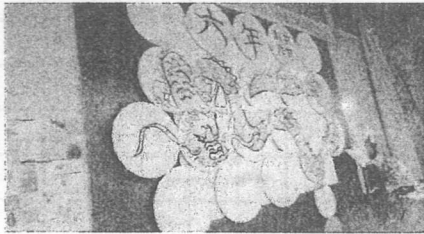
令和4年度(2022年度)
令和4年11月30日発行
八王子市立長房小学校
校長 川村 和人

ホームページに子どもたちの様子を公開しています

『子育てをしながら 学んだこと』

副校長 小泉美樹

11月には2学期の大きな行事である「作品展」がありました。今年度は「わ」をテーマにして、子どもたちがいろいろな表現を取り組み、発表しました。共同制作もがんばりました。鑑賞していた作品であっという間に過ぎました。近隣の皆さまの協力のおかげで、作品展がスムーズに進行することができました。心豊かな作品がたくさんありました。たくさんのお礼の言葉をいただきました。ありがとうございました。今年度は2022年の年末でもありません。今年1年を振り返り、新しい年に向けて目標を立てていただければと思います。また来年もよろしくお願い申し上げます。



さて世の中は、FIFAワールドカップでとても盛り上がっていますが、一方で新型コロナウイルス感染症拡大第8波やインフルエンザ等の感染症の流行が懸念されています。子どもたちはコロナ禍の「新しい生活様式」にだんだんと慣れ、感染予防が当たり前となり、コロナ発生前とは違う形での日常の過ごし方になってきていると思います。そして、「これはこうあるべき」という考え方で進めるのではなく、「その時々状況に応じた柔軟な対応」ができるようになってきていると思います。「逆境が次へのステップアップとなる」という考え方があります。また「必要は発明の母」ということわざもあります。

必要なことに、どのように取り組んでいくのか、今いろいろなところで、様々なアイデアが生まれています。例えば、学校ではオンライン授業が容易にできるようになりました。またテレワークを取り入れている企業が増え、学校への出前授業もオンラインでできるようになりました。世の中が変わりつつあるなど感じている毎日です。

でもこのスピードの速い状況の変化に、心も体もついていけない！とストレスを感じている方も多いと思います。(実は私も・・・) 柔軟に考えのできる子どもたちも、目に見えない不安やストレスを感じているかもしれません。

「お母さん、ちょっと怖いんだけど、一緒の部屋で寝てもいい？」



小学生になってから、一人の部屋で寝ていた息子が5年生の時のことです。当時、仕事と家事と子育ての両立であくせくしていた私は、その言葉を聞いてハットさせられませんでした。それを聞くまで、息子が不安を抱えていたことに、全く気が付かなかつたからです。子どもは親の様子をよく見ています。そして我慢してしまふことがあります。「こんなことを言ったら叱られるかも・・・」「高学年にもなつて、こんなことは恥ずかしいかな」「お母さん忙しいから迷惑かな」など、子どもなりにいろいろ考えてしまっているのです。何が怖かったのか・・・今ではその理由は忘れてしまいましたが、私の隣に布団を敷いて弱い明りをつけて、いろいろな話をしながら一緒に寝たことを覚えています。気が付いてあげられなくて申し訳ない気持ちがしました。そして、子どもが心に抱えている様々な思いに、気が付いてあげられるような親になれたらと、今までの自分を反省したことも覚えています。

忙しくしていると、つい子どもの様子を細かく見ることができなくなり、SOSのサインを見逃してしまうことがあります。大人の言葉や行動を見て、子どもたちは無意識に遠慮してしまったり、本当のことが言えなかつたりする場合があります。私は、一緒にいる子どもたちの様子を見守り、気持ちに気付いてあげられるようにしていくことが大事だと思います。そして気持ちを伝えてくれた時には「言ってくれてありがとう」という共感の気持ちで接し、子どもたちのSOSの声を聞くことのできる、信頼される大人でありたいと考えるのです。そして、子どもに寄り添うことのできる大人の輪を広げることができたら、すてきななと思います。